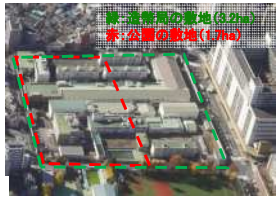
IKE·SUN PARK

整備前の土地および周辺の状況

●造幣局地区は造幣局東京支局が昭和10年代より貨幣・勲章等の製造を行う
　➢敷地は壁や塀に囲まれた閉鎖的な空間
●地区周辺は全国でも有数の木造住宅密集地域
　➢長きにわたる防災公園の整備の要望
●平成25年に造幣局の移転に向け「確認書」を取り交わし土地利用転換が図られる

出典：UR都市機構・豊島区　造幣局地区防災公園街区整備事業パンフレット



IKE·SUN PARK

事業スキーム（1）造幣局地区のまちづくり

●平成26年に豊島区で「造幣局地区街づくり計画」を作成
　➢東側1.7haを防災公園地域・西側1.5haを市街化区域として整備
　➢地元要望と池袋副都心・木造密集地域に隣接した立地特性に配慮
●平成27年にUR都市機構が防災公園街区整備事業として直接施行することの同意(議決)
　➢造幣局地区を防災公園街区整備事業として整備

出典：UR都市機構・豊島区　造幣局地区防災公園街区 整備事業パンフレット

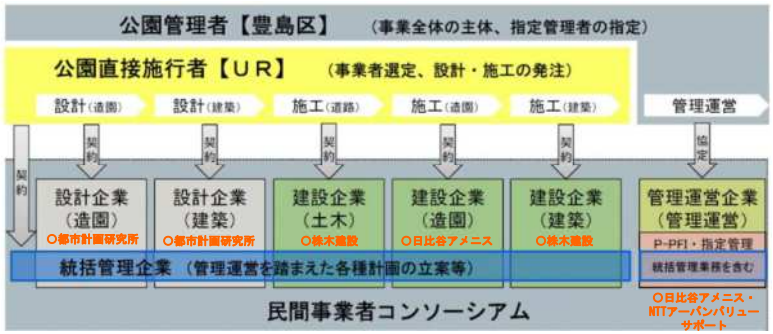
【課題】
➢工場跡地整備後の賑わいの創出と地域の活性化
➢平常時の賑わいと災害時の防災機能の機能充実
➢多様な利用空間としての運営にあたり地元住民との合意形成

IKE·SUN PARK

事業スキーム（2）公民が連携した事業体制の構築

●「設計施工管理運営一体型発注」により共同事業体(コンソーシアム)を条件に事業者公募を実施
　➢将来の公園の管理運営を踏まえた設計・整備を実現

●Park-PFI制度を導入し、事業者公募と一体で公募を実施
　➢公民が連携した新たな事業体制でフェーズフリーの公園を計画・実現



【設計施工管理運営一体型発注　事業スキーム図】

IKE·SUNJ PARK

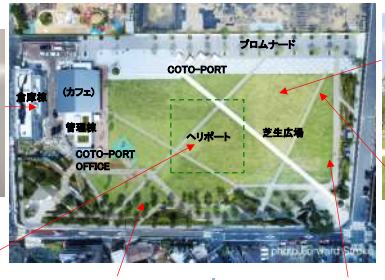
公民連携による「フェーズフリー」な公園の整備（1）

●芝生広場を始めとした平常時・災害時ともに活用できるフェーズフリーの公園として令和２年完成

➢閉鎖的な空間から開放的な空間へ

➢周辺地域および区全体の防災機能強化を実現

断水時にも利用可能な災害用トイレ



区内最大　6600m²の芝生広場

ヘリポートとしての活用

防火樹林帯(こもれびの森)

防災深井戸(放水訓練の様子)

IKE·SUNJ PARK

公民連携による「フェーズフリー」な公園の整備（2）

●Park-PFI制度を活用しカフェ内装や木製デッキ等を整備

➢官民連携によって民間資金を導入し財政負担を軽減しながら賑わいを実現

公園利用者：約4500人/日

（令和2年12月）

●近隣世帯に対し公園整備と利用満足度に関するアンケートを実施

➢約６割が「避難場所ができて安心」

総合的な満足度は約７割が「満足」

便益施設 カフェ「EAT GOOD PLACE」

便益施設 事務所兼倉庫「KOTO-PORT OFFICE」

特定公園施設の整備（木製デッキ）

※赤線の部分

IKE·SUNJ PARK

公園を中心とした賑わいの創出 周辺地域の活性化

●多様な飲食を提供する小型店舗「KOTO-PORT」を展開

➢地域活性化に貢献するプレイヤーを育成

●「SDGsモデル事業」として新鮮な野菜・交流都市や区の名産品の販売する「ファーマーズマーケット」を毎週末開催

➢地域の活性化や地方との共生に貢献

●市街地整備区域(市街地B)の遊休地を活用しインクルーシブ公園「としまキッズパーク」を整備

●池袋周辺の４つの公園を電気バス「IKEBUS」が繋ぐ

➢公園周辺の賑わいと地域の回遊性に貢献

小型店舗「KOTO-PORT」

イケサンパーク ファーマーズマーケット

電気バス「IKEBUS」

IKE·SUNJ PARK

今後の展望

●地元企業などとタイアップし1年を通じて多彩なイベントを開催

➢ 池袋駅周辺の4つの公園を含む周辺地域の賑わいを形成

池袋駅周辺4つの公園の連携

●大学と公園が連携した防災機能を発揮できる協定等を今後締結

東京国際大学(2023年開校予定)

●地域関係者と区・指定管理者からなる「としまみどりの防災公園をよくする会」やコミュニティガーデン、防災に関するイベントを定期的に開催

➢防災機能の周知と強化

➢地域との協同による公園運営

コミュニティガーデンの開催